

FUJITSU Integrated System

PRIMEFLEX for Cloud CRB500 V1(VMware,BX2580/DX)

ご使用上の制限・留意事項

FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud CRB500 V1 (VMware, BX2580/DX)(以降、PRIMEFLEX for Cloud CRB500)に関して、以下の制限・留意事項がございます。製品をご使用になる前にお読みくださいますようお願いいたします。

また、本製品マニュアルの内容に修正事項がございます。ここに謹んでお詫び申し上げます。

対象となるドキュメントをご覧になる際は、以下に記載します内容もあわせてお読みくださいますようお願いいたします。

2017年7月
富士通株式会社

■ご使用上の制限・留意事項

1. リモート通報についての制限

PRIMEFLEX for Cloud CRB500 ではリモート通報はサポートされていません。

なお、本機能に対する修正対応については、「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud」ページ、または、Support Desk-Web の製品ページでお知らせいたします。

<http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>

2. ServerView Infrastructure Manager のメンテナンス支援機能についての制限

ServerView Infrastructure Manager のメンテナンス支援機能を使用してドメイン連携をしている PRIMERGY BX900 S2 マネジメントブレードおよびファイバーチャネルスイッチブレードのファームウェア版数情報の取得およびファームウェア更新はできません。

ファームウェア版数情報の取得およびファームウェア更新については、各製品の操作手順に従ってください。

なお、本機能に対する修正対応については、以下の弊社情報公開サイトのいずれかよりお知らせいたします。

- 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud」ページ
<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/integrated-systems/primeflex-cloud/after/downloads/index.html>
- Support Desk-Web の製品ページ
<http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>

3. PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレードの Web Tools についての制限

PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレードでは、Java 8 がインストールされた管理端末の Web ブラウザ上で Web Tools が使用できません。

管理端末から telnet 接続もしくは SSH 接続で PRIMERGY ファイバーチャネルスイッチブレードへ接続して下さい。

4. ServerView Operations Manager のサーバリスト画面の表示についての留意

サーバブレードが搭載された環境で、ServerView Operations Manager のサーバリストからサーバブレード上に配置された仮想マシンが表示されない、または、複数表示される等、正しく表示されない場合があります。

本製品では、仮想マシンの管理は vCenter Server で行っており、ServerView Operations Manager での表示が異なっても運用上問題はございません。

なお、本機能に対する修正対応については、以下の弊社情報公開サイトのいずれかよりお知らせいたします。

- 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud」ページ
<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/integrated-systems/primeflex-cloud/after/downloads/index.html>
- Support Desk-Web の製品ページ
<http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>

5. ServerView Operations Manager のアラームモニタについての留意

サーバブレードの iRMC から送信された SNMP トラップ通知が、ServerView Operations Manager のアラームモニタ画面で該当サーバを選択しても表示されない場合があります。通知を確認したい場合は、サーバリストの「全てのサーバ」から確認してください。

なお、本機能に対する修正対応については、以下の弊社情報公開サイトのいずれかよりお知らせいたします。

- 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud」ページ
<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/integrated-systems/primeflex-cloud/after/downloads/index.html>
- Support Desk-Web の製品ページ
<http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>

6. ESXi ホストの Active Directory 連携について

VMware vCenter Server から ESXi ホストが応答なしとなる場合があります。

これは ESXi を管理するプロセスが無応答状態となっているためです。詳細につきましては、下記をご参照ください。(英文サイト)

<https://kb.vmware.com/kb/2145611>

なお、本機能に対する修正は ESXi6.0 U2 以上にアップデートすることで解決されています。

アップデート手順につきましては、下記の弊社情報サイト内に掲載されています。

- Support Desk-Web の製品ページ

<http://eservice.fujitsu.com/supportdesk/>

■ ドキュメント修正事項

1. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) 利用ガイド」への訂正事項について

- ・ 「付録 A システム運用上の留意点 A.3.9 VMware vSphere 6.0 に関する留意事項」について、以下を追記いたします。
VMware vSphere 6 の環境において、仮想マシンスナップショットの削除処理をキャンセルしないでください。仮想ディスクが破損します。詳細につきましては、以下ヴイエムウェア社公開サイトをご確認ください。(英語サイト)

<https://kb.vmware.com/kb/2146319>

2. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) バックアップ・リストアガイド」への訂正事項について

- ・ 「5.11 ドメイン参加」の末尾に、以下手順を追記いたします。
11. 管理端末から ADVM1 にドメインアカウントでログインします。

POINT

- ADVM1に設定した内容が、ADVM2に自動的に反映されます。

項目	入力値
ADVM1 の IP アドレス	[ADVM1_環境設定書] - [3.ネットワーク設定]シート - [3.1.ネットワークのプロパティ] - [インターネットプロトコルバージョン 4(TCP/IPv4)] -[IP アドレス]

12. サーバーマネージャーの[ツール]から[DNS]を選択し、DNS マネージャーを起動します。
13. 左ペインの[<ADVM1 仮想マシン名>]-[前方参照ゾーン]-[<ドメイン名>]を選択、右クリックして[新しいホスト(A または AAAA)]を選択します。

項目	入力値
ADVM1 の仮想マシン名	[ADVM1_環境設定書] - [1.仮想マシン設定情報]シート - [1.1.VMware の設定]-[新規仮想マシンの作成] - [名前と場所]-[名前]
ドメイン名	[ADVM1_環境設定書] - [9.AD DNS の設定]シート - [9.1.Active Directory の設定] - [ドメインコントローラの構築 (ADVM1)] - [ルートドメイン名]

14. [新しいホスト]画面で、下記情報を設定、[ホストの追加(H)]をクリックします。
 - ・ 名前: 登録する ESXi ホスト名を入力
 - ・ IP アドレス: 登録する ESXi ホストの IP アドレスを入力
 - ・ [関連付けられたポインター(PRT)レコードを作成する]をチェック
15. 正常に実行されたことを示すポップアップが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。
16. 登録する ESXi ホストの数だけ、上記手順 14,15 を繰り返します。
17. [新しいホスト]画面-[完了]ボタンをクリックし、[新しいホスト]画面を終了します。
18. 左ペインの[<ADVM1 仮想マシン名>]を右クリックし、[最新の情報に更新]を選択します。
19. 左ペインの[<ADVM1 仮想マシン名>]-[前方参照ゾーン]-[<ドメイン名>]を選択し、右ペインの登録サーバー一覧に ESXi ホストが追加されていることを確認します。
20. 左ペインの[<ADVM1 仮想マシン名>]-[<逆引き参照ゾーン>]-[<ネットワーク ID>.in-addr.arpa]を選択し、右ペインの登録サーバー一覧に ESXi ホストが追加されていることを確認します。

項目	入力値
ネットワーク ID	[ADVM1_環境設定書] - [9.AD DNS の設定]シート - [9.1.Active Directory の設定] - [逆引きゾーンの作成] - [ネットワーク ID]

3. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud フィールド増設オプション増設ガイド(共通)」への訂正事項

■ 「2.2.2.2 ServerView Infrastructure Manager への登録」を以下に訂正します。

1. 「2.2.2.1 登録用ファイルの作成」で作成した facility_list.csv をインフラ管理 VM の任意の場所に格納します。
2. インフラ管理 VM でスタート画面から [ServerView Infrastructure Manager] を起動します。
3. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

項目	設定値
ユーザー	crbadmin
パスワード	ソフトウェアパスワード

4. サブメニューから [Facility Browser] をクリックします。

POINT

- セキュリティ警告画面が表示された場合は、[許可する]ボタンをクリックします。

5. [ファイルを開く] をクリックし、手順 1 で格納した facility_list.csv を選択します。
6. [整合性確認] ボタンをクリックします。分析が終了したら [OK] ボタンをクリックします。
7. [登録] をクリックします。登録が終了したら [OK] をクリックします。
8. 追加登録を反映するため、サービス「ServerView Infrastructure Manager Service」を再起動します。
9. [ServerView Infrastructure Manager] のサブメニューから [Facility Manager] をクリックします。

10. 追加したドライブエンクロージャがワークエリアに追加されていることを確認します。
11. [一覧] タブ内のツリーを展開し、ラックを右クリックします。[消費電力制御設定] を実行します。
12. [消費電力制御設定] 画面が開きます。増設機器の「最大消費電力」欄が空白になっています。右下の[デフォルト] ボタンをクリックすることで、デフォルト値が入力されます。



13. [設定] ボタンをクリックすると、設定処理が実行されます。処理が終了したら[閉じる] ボタンをクリックして[消費電力制御設定] 画面を閉じます。
14. [Facility Manager] 画面の左下にある [グループ一覧] を選択します。
15. 既存のグループ名を右クリックし、[グループ編集] を選択します。
16. [機器タイプ] で [全ての機器] を選択します。
17. [ファシリティ機器リスト] に登録した機器が表示されていることを確認します。[すべて>>] をクリックし、[グループ対象ファシリティ機器リスト] に移動します。[保存] をクリックします。
18. 画面右上の [ログアウト] リンクをクリックし、ServerView Infrastructure Manager からログアウトします。

■ 「第 2 章 ストレージエンクロージャ増設オプション」を以下に訂正します。

本章では、ストレージエンクロージャ増設オプションにおける ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 ドライブエンクロージャ(以降、ドライブエンクロージャと表記)の増設手順について説明します。

重要

- PRIMEFLEX for Cloud の増設オプションのみが対象です。その他のドライブエンクロージャについてはサポート対象外です。
- 本章で説明する設定方法は、出荷時の構成および設定状況を想定しています。お客さまが運用中に変更した設定は考慮されていません。お客さまで設定を変更した場合は、運用中の環境に合わせた設定が必要です。

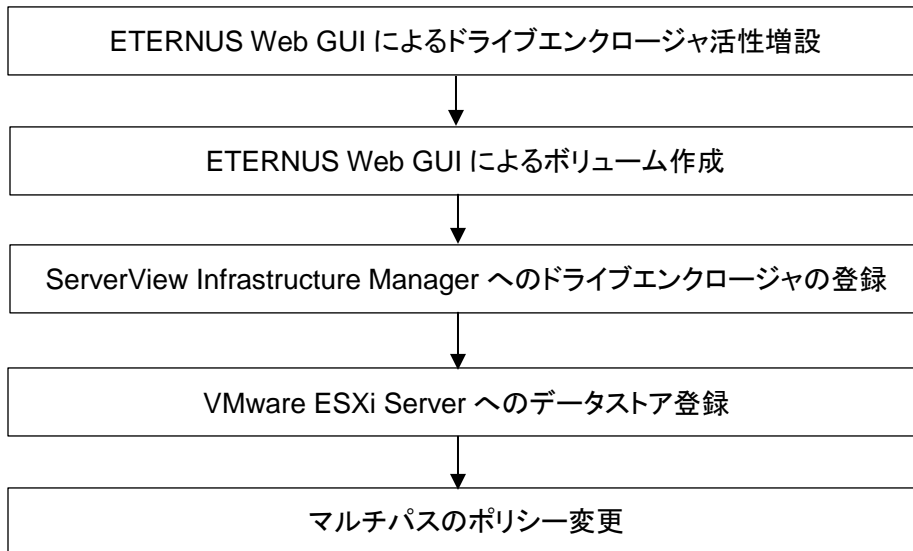
2.1. ドライブエンクロージャ増設の流れ

ここでは、ドライブエンクロージャ増設の流れについて説明します。

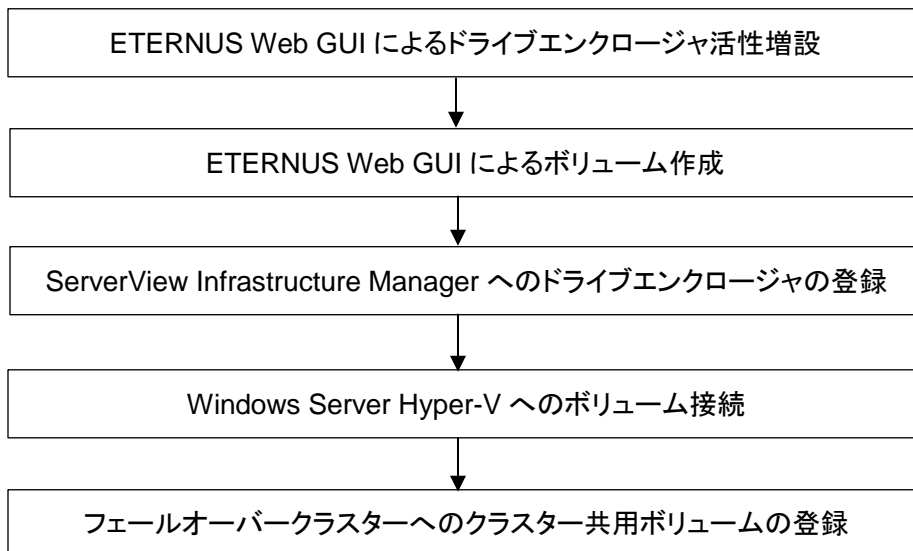
2.1.1. ドライブエンクロージャの増設

ドライブエンクロージャの増設の流れは以下のとおりです。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX)の場合]



[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]



2.2. ドライブエンクロージャの増設手順

ドライブエンクロージャの増設手順を説明します。

2.2.1. ETERNUS Web GUI によるドライブエンクロージャ活性化増設

『ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 運用ガイド(基本編)』に従って、ドライブエンクロージャの増設を行います。

1. 管理端末で Web ブラウザを起動し、アドレス欄に以下を入力します。

http://[ETERNUS の Master IP アドレス]

項目	設定値
IPアドレス	ETERNUS の Master IP アドレス

2. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザ ID	crbadmin@<ドメイン名>
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザ ID	root
パスワード	ハードウェアパスワード

3. メニューバーから [コンポーネント] タブを選択し、コンポーネント画面を表示します。
4. ドライブエンクロージャの増設を行います。
『ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 運用ガイド(基本編)』 - 「第 5 章 増設／機能拡張」 - 「5.2 ドライブエンクロージャの増設」の手順に従って、対象のドライブエンクロージャを増設します。

POINT

- 1 台目のドライブエンクロージャを増設する場合は、上記マニュアルの「5.2.3 ドライブエンクロージャの増設手順」の手順 10～12 の作業は必要ありません。

5. ドライブの増設を行います。
『ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 運用ガイド(基本編)』 - 「第 5 章 増設／機能拡張」 - 「5.1 ドライブの増設」の手順に従って、対象のドライブを増設します。

2.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成(3.5 インチドライブエンクロージャ増設時は不要)

『ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(設定編)』に従って、増設したドライブエンクロージャに対してボリュームの作成を行います。

1. 管理端末で Web ブラウザを起動し、アドレス欄に以下を入力します。

http://[ETERNUS の Master IP アドレス]

項目	設定値
IP アドレス	ETERNUS の Master IP アドレス

2. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザ ID	crbadmin@<ドメイン名>
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザ ID	root
パスワード	ハードウェアパスワード

3. メニューバーから [RAID グループ] タブを選択し、RAID グループ画面を表示します。
4. RAID グループの作成を行います。
『ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(設定編)』 - 「第 5 章 RAID グループの管理」 - 「5.1. RAID グループの作成」 - 「■使用するドライブを手動で選択する場合」の手順に従って、RAID グループを作成します。

重要

- 既存の PRIMEFLEX for Cloud と RAID グループ名が重複しないように、命名してください。
- RAID グループを構成するディスクドライブ数は、サーバタイプにより異なります。
ブレードサーバタイプ
RAID1+0 → ディスクドライブ 8 本で 1RAID グループ
RAID6 → ディスクドライブ 6 本で 1RAID グループ
ラックサーバタイプ
RAID 構成によらず、ディスクドライブ 8 本で 1RAID グループ
- 作成する RAID グループの数だけ手順を繰り返してください。

POINT

- RAID グループ作成画面でドライブを選択する際は、スロット番号が小さいものから順に選択してください。

設定項目を以下に示します。

項目	設定値
名前	vms_raid_<3 桁の数字> 備考 <3 桁の数字>には、現在設定されているものから連続した数字を入力する。
作成モード	手動
RAID レベル	適切なものを以下から選択する。 High Performance (RAID1+0) High Reliability (RAID6)
担当 CM	自動
Stripe Depth (高度な設定タブを展開)	64KB

5. メニューバーから [ボリューム] タブを選択し、ボリューム画面を表示します。

6. ボリュームの作成を行います。

『ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(設定編)』 - 「第 3 章 ボリュームの管理」 - 「3.1. ボリュームの作成」 - 「■ボリュームの作成先を手動で選択する場合」の手順に従って、RAID グループを作成します。

重要

- 既存の PRIMEFLEX for Cloud とボリューム名が重複しないように、命名してください。
- 1RAID グループにつき 1 ボリュームを作成します。
- 作成するボリュームの数だけ手順を繰り返してください。

POINT

- ボリュームの作成先の RAID グループには、名前の<3 桁の数字>が一致するものを選択します(対象 RAID グループ名のボリューム数を「1」にします)。

設定項目を以下に示します。

項目	設定値(ブレードサーバ)	設定値(ラックサーバ)
名前	vms_vol_<3 桁の数字> 備考 <3 桁の数字>には、現在設定されているものから連続した数字を入力	
容量	3278 (GB) (RAID1+0 構成、RAID6 構成とも同じ値)	RAID1+0 構成: 3278(GB) RAID6 構成: 4917(GB)
タイプ	Standard	
ボリューム容量 SDV のみ	<空白>	

項目	設定値(ブレードサーバ)	設定値(ラックサーバ)
RAID グループ/TPP の選択	手動	
最大空き容量をすべて使用	チェックしない	
ボリューム No.	チェックしない	
CM による暗号化	無効	

7. メニューバーから [接続性] タブを選択し、接続性画面を表示します。
8. カテゴリーから [LUN グループ] を選択します。
9. LUN グループの変更を行います。
手順 6 で作成したボリュームを既存の LUN グループに追加するため、LUN グループの変更を行います。
『ETERNUS Web GUI ユーザーズガイド(設定編)』 - 「第 4 章 接続性の管理」 - 「4.4. LUN グループ管理」 - 「4.4.3. LUN グループの変更」の手順に従って、LUN グループを行ってください。
(LUN グループの名称変更は必要ありません)

重要

- ボリュームの追加方法は、サーバタイプにより異なります。
ブレードサーバタイプ
afg_100 を除く全ての LUN グループに、手順 4 で作成した全てのボリュームを追加します。
afg_100 を除く全ての LUN グループの数だけ手順 9 を繰り返してください。
ラックサーバタイプ
全ての LUN グループに手順 4 で作成した全てのボリュームを追加します。

POINT

- 各ボリュームの番号は、LUN 追加画面の[▼ボリューム選択] - [No]に表示されます。

LUN グループに対して複数のボリュームを 1 度に追加する場合は、[▼LUN 設定]以下の設定値を入力し、[OK]を選択します。

項目	設定値
LUN 開始番号	<手順 6 で作成したボリュームのうち、最小のボリューム番号>
LUN 数	<手順 6 で作成したボリューム数>

LUN グループに対してボリュームを個々に追加する場合は、[▼ボリューム選択]、手順 6 で作成したボリュームを選択し、[OK]を選択します。

2.2.3. ServerView Infrastructure Manager へのドライブエンクロージャの登録

『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager ユーザーズマニュアル』に従って、ServerView Infrastructure Manager にドライブエンクロージャを登録します。

2.2.3.1 登録用ファイルの作成

ServerView Infrastructure Manager に現在登録されている情報を確認し、ドライブエンクロージャ追加登録用ファイルを作成します。

1. 管理端末でリモートデスクトップを起動します。コンピューターに IP アドレスを入力し、インフラ管理用仮想マシン(以降、インフラ管理 VM と表記)へ接続します。

項目	設定値
IP アドレス	インフラ管理 VM の IP アドレス

2. 以下のアカウントでログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー名	<ドメイン名>%crbadmin
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー名	<ドメイン名>%Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

3. スタート画面から [ServerView Infrastructure Manager] を起動します。
4. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー	crbadmin
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー	Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

5. サブメニューから [Facility Manager] をクリックします。

POINT

- セキュリティ警告画面が表示された場合は、[許可する]ボタンをクリックします。

6. 構成情報を確認します。
各部の名称については、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager ユーザーズマニュアル』の「[FacilityManager] 画面」を参照してください。

・センター情報

[ツリーエリア] - [一覧] タブでセンター名を確認します。

名称

[ツリーエリア] - [一覧] タブでセンター名を展開し、所属するラック数を確認します。

ラック数

・ラック情報

[ツリーエリア] - [一覧] タブでラック名を右クリックし、[プロパティ] を選択して以下の項目を確認します。

タブ名称	
プロパティ	ラック名
	ラック番号

[ツリーエリア] - [一覧] タブでラック名をクリックし、「ワークエリア」からラックのユニット数を確認します。

POINT

- ラックの図の左側に表示されている数字のうち、最上位の値がユニット数です。

ユニット数

・コントローラーエンクロージャ情報

[ツリーエリア] - [一覧] タブで、増設する ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 のコントローラーエンクロージャが搭載されているラック名をクリックし、「ワークエリア」を表示します。
「ラック搭載機器」から対象の ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 コントローラーエンクロージャを右クリックし、[プロパティ]を選択して以下の項目を確認します。

タブ名称	
プロパティ	機器名
	IP アドレス

7. Microsoft Excel がインストールされている環境で ServerView Infrastructure Manager 登録データ作成ツールを使用し、構成情報を作成します。
『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager ユーザーマニュアル』の「運用」 - 「Facility Manager での機器登録」を参照し、登録データ(facility_list.csv)を作成します。

重要

- ServerView Infrastructure Manager のバージョンにより、設定を変更できる項目は異なります。グレーアウトして入力できない項目は入力不要です。

以下に設定例を示します。詳細については、『FUJITSU Software ServerView Infrastructure Manager ユーザーマニュアル』を参照してください。

・[センター情報編集] 画面 項目

POINT

- 以下の表の項目以外は、変更不要です。

項目	設定値
ID	1
名称	手順 6 で確認した値を入力 [センター情報] - [プロパティ] - [名称]
ラック列	1
ラック数	手順 6 で確認した値を入力 [センター情報] - [ラック数]

・[ラック情報編集] 画面 項目

POINT

- センター情報で入力したラックの数だけ設定を行います。
- 以下の表の項目以外は、変更不要です。

項目	設定値
ラック番号	手順 6 で確認した値を入力 [ラック情報] - [プロパティ] - [ラック番号]
ユニット数	手順 6 で確認した値を入力 [ラック情報] - [ユニット数]
ラック名	手順 6 で確認した値を入力 [ラック情報] - [プロパティ] - [ラック名]

・構成情報一覧 項目 (ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 コントローラーエンクロージャ)

POINT

- 以下の表の項目以外は、変更不要です。
- ドライブエンクロージャのみの入力できないため、コントローラーエンクロージャも併せて設定します。
- facility_list.csv には増設するドライブエンクロージャのみを出力します。Output Select の設定値を対象のドライブエンクロージャのみ「Y」にし、その他の機器は「N」に設定します。

項目	設定値	
Output Select	N	N
FacilityName	手順 6 で確認した値を入力 [コントローラーエンクロージャ 情報] - [プロパティ] - [機器名]	-
ParentName	<空白>	手順 6 で確認した値を入力 [コントローラーエンクロージャ情 報] - [プロパティ] - [機器名]

・構成情報一覧 項目 (ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 ドライブエンクロージャ)

項目	設定値
Output Select	Y
No.	<自動入力された値>
FacilityName	<ドライブエンクロージャの機器名を入力> (名前は任意)
ParentName	手順 6 で確認した値を入力 [コントローラーエンクロージャ情報] - [プロパティ] - [機器名]
NetAddress	<空白>
Type	18
Sensor	0
Port/SlotNo	0
Community	<空白>
PollInterval	60
RackNo	<搭載されているラック番号を入力>
RackAreaNo	<ラック内の搭載位置を入力>
RackNumberUnits	2
Notes	以下から適切なものを入力する。 DX100S3 DX200S3
VenderID	1

項目	設定値
Model	以下から適切なものを入力する。 ETERNUS DX100 S3 ETERNUS DX200 S3
System	<空白>
S/N	<空白>
ProductNo	以下から適切なものを入力する。 ETFEAD-L (2.5 インチドライブエンクロージャの場合) ETFEBD-L (3.5 インチドライブエンクロージャの場合)
EquipmentDate	<設置年月日を記入>
Application	http://[NetAddress] (コントローラーエンクロージャと同じ値)

・構成情報一覧 項目(その他の構成機器)

POINT

- 以下の表の項目以外は、変更不要です。
- 本書手順の対象ではないため、その他すべての構成機器に対して Output Select の設定値を「N」に設定します。

項目	設定値
Output Select	N

2.2.3.2 ServerView Infrastructure Manager への登録

1. 「2.2.3.1 登録用ファイルの作成」で作成した facility_list.csv をインフラ管理 VM の任意の場所に格納します。
2. インフラ管理 VM でスタート画面から [ServerView Infrastructure Manager] を起動します。
3. ログイン画面が表示されるので、以下を入力し、ログインします。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー	crbadmin
パスワード	ソフトウェアパスワード

[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX) の場合]

項目	設定値
ユーザー	Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

4. サブメニューから [Facility Browser] をクリックします。

POINT

- セキュリティ警告画面が表示された場合は、[許可する]ボタンをクリックします。

5. [ファイルを開く] をクリックし、手順 1 で格納した facility_list.csv を選択します。
6. [整合性確認] ボタンをクリックします。分析が終了したら [OK] ボタンをクリックします。
7. [登録] をクリックします。登録が終了したら [OK] をクリックします。
8. 追加登録を反映するため、サービス「ServerView Infrastructure Manager Service」を再起動します。
9. [ServerView Infrastructure Manager] のサブメニューから [Facility Manager] をクリックします。
10. 追加したドライブエンクロージャがワークエリアに追加されていることを確認します。
11. [一覧] タブ内のツリーを展開し、ラックを右クリックします。[消費電力制御設定] を実行します。
12. [消費電力制御設定] 画面が開きます。増設機器の「最大消費電力」欄が空白になっています。右下の[デフォルト] ボタンをクリックすることで、デフォルト値が入力されます。



13. [設定] ボタンをクリックすると、設定処理が実行されます。処理が終了したら[閉じる] ボタンをクリックして[消費電力制御設定] 画面を閉じます。
14. [Facility Manager] 画面の左下にある [グループ一覧] を選択します。
15. 既存のグループ名を右クリックし、[グループ編集] を選択します。
16. [機器タイプ] で [全ての機器] を選択します。
17. [ファシリティ機器リスト] に登録した機器が表示されていることを確認します。[すべて>>] をクリックし、[グループ対象ファシリティ機器リスト] に移動します。[保存] をクリックします。
18. 画面右上の [ログアウト] リンクをクリックし、ServerView Infrastructure Manager からログアウトします。

2.2.4. ホストサーバへのボリューム登録

「2.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成」で作成したボリュームをホストサーバで使用するために、ホストサーバへボリュームを認識させます。

2.2.4.1. VMware ESXi Server へのデータストア登録

VMware ESXi Server に、「2.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成」で作成したボリュームをデータストアとして登録します。

POINT

- 1つのホストにデータストアの登録を行うと、すべてのホストに反映されます。

1. 管理端末で VMware vSphere Client を起動します。
2. VMware vCenter Server(仮想化管理 VM)への接続情報を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

項目	設定値
IP アドレス/名前	仮想化管理 VM の IP アドレス
ユーザー名	crbadmin@<ドメイン名>
パスワード	ソフトウェアパスワード

3. [表示]メニューより、[インベトリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択し、[ホストおよびクラスタ]ビューを表示します。
4. ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名] - [Datacenter] - [Cluster] - [管理兼業務サーバ#1 ホスト IP アドレス]を選択します。
5. [構成]タブをクリックし、メインウィンドウを構成画面へ切り替えます。
6. 構成画面左側のハードウェアメニューから[ストレージ]を選択します。
7. データストア画面から[ストレージの追加...]リンクをクリックします。
8. ストレージタイプに[ディスク/LUN]が選択されていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。
9. 登録するディスク/LUN を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

POINT

- [LUN]に表示されている番号を確認しておきます。
- [LUN]に表示されている番号が小さいものから順に選択してください。

10. ファイルシステムのバージョンに[VMFS-5]が選択されていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。
11. 現在のディスクレイアウトが表示されるので、[次へ]ボタンをクリックします。

12. プロパティ画面で、<データストア名>を入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

項目	設定値
データストア名	登録するボリューム名と同じ名前を入力

POINT

- 登録するボリューム名は LUN 番号で判断してください。

13. 容量に[使用可能な最大領域]が選択されていることを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。
14. 終了準備の完了画面が表示されるので、[終了]ボタンをクリックします。
15. [VMFS データストアの作成]タスクが完了した後、vSphere Client 画面に作成したデータストアが表示されることを確認します。

POINT

- タスク完了後に追加したデータストアが[データストア]一覧に表示されない場合、[更新]リンクをクリックします。

16. 複数のデータストア登録が必要な場合は、手順 7～15 を繰り返し、データストアの登録を行います。
17. ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名] – [Datacenter] – [Cluster] – [管理兼業務サーバ#2 ホスト IP アドレス]を選択します。

POINT

- 登録を行ったホスト(管理兼業務サーバ#1)以外のすべてのホストでデータストアが登録されているかを確認します。

18. [構成]タブをクリックし、メインウィンドウを構成画面へ切り替えます。
19. 構成画面左側のハードウェアメニューから[ストレージ]を選択します。
20. データストア画面に手順 7～15 で登録したデータストアがすべて表示されていることを確認します。

POINT

- 登録を行ったデータストアが表示されない場合は、「すべてを再スキャン…」を選択してください。

21. すべてのホスト(業務サーバ)について、手順 17～20 を繰り返し、データストアが登録されていることを確認します。

2.2.4.2. VMware ESXi Server データストアのマルチパスポリシー変更

引き続き、「2.2.4.1. VMware ESXi Server へのデータストア登録」で登録したデータストアのマルチパスポリシーを変更します。

重要

- 登録したすべてのデータストアに対して操作を行います。
- すべてのデータストアのパスの選択ポリシーを[ラウンドロビン (VMware)]に変更します。

1. 管理端末で VMware vSphere Client を起動します。
2. VMware vCenter Server(仮想化管理 VM)への接続情報を入力し、[ログイン]ボタンをクリックします。

項目	設定値
IP アドレス/名前	仮想化管理 VM の IP アドレス
ユーザー名	crbadmin@<ドメイン名>
パスワード	ソフトウェアパスワード

3. [表示] メニューより、[インベトリ] - [ホストおよびクラスタ] を選択し、[ホストおよびクラスタ] ビューを表示します。
4. ナビゲーションメニューより、[仮想化管理 VM コンピュータ名] - [Datacenter] - [Cluster] - [管理兼業務サーバ#1 ホスト IP アドレス]を選択します。
5. [構成]タブをクリックし、メインウィンドウを構成画面へ切り替えます。
6. 構成画面左側のハードウェアメニューから[ストレージ]を選択します。
7. 「2.2.4.1. VMware ESXi Server へのデータストア登録」で最初に登録したデータストアを右クリックし、コンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。
8. データストアのプロパティ画面で[パスの管理]をクリックします。
9. ポリシーのパスの選択から[ラウンドロビン (VMware)]を選択し、[変更]ボタンをクリックします。
10. [閉じる]ボタンを順次クリックし、データストアのプロパティ画面を閉じます。
11. すべてのデータストアに対して手順 7～10 を繰り返し、データストアのパスの選択ポリシーを変更します。

2.2.4.3. Windows Server Hyper-V ホストへのボリューム登録

Hyper-V サーバに「2.2.2 ETERNUS Web GUI によるボリューム作成」で作成した新規ボリュームを登録します。

POINT

- 1 つのホストにボリューム登録を行うと、アフィニティグループの同じすべてのホストに反映されます。

1. 管理端末でリモートデスクトップ接続を起動します。
2. 「オプションの表示」をクリックし、全般タブのログオン設定に新規ボリュームを接続したい Hyper-V サーバの接続情報を入力し、[接続]ボタンをクリックします。

項目	設定値
コンピューター	管理兼業務サーバ#1 または業務サーバ#n の IP アドレス
ユーザー	<ドメイン名>¥Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

3. サーバーマネージャーを起動し、ツールメニューから「コンピューターの管理」をクリックします。
4. 「コンピューターの管理」コンソールの左ペインの「ディスクの管理」をクリックします。
5. 「ディスク nn」(不明 XXXGB、オフライン)と表示された、左の矩形部分を右クリックします。
6. 表示されたコンテキストメニューの「オンライン」を選択します。
7. もう一度、「ディスク nn」を右クリックします。
8. 表示されたメニューから、「ディスクの初期化」を選び、オンラインになったハードディスクを初期化します。
9. パーティションの形式に GPT (GUID パーティションテーブル) を選びます。
10. 「未割り当て領域」の部分をクリックして、「新しいシンプルボリューム」を選択します。
11. 「新しいシンプルボリューム」ウィザードが開始されるので「次へ」ボタンをクリックします。
12. 「ボリュームサイズの指定」画面でデフォルトとして、割り当て可能な最大ディスク容量が表示されます。
ここでは、領域のすべてをフォーマットするので、このまま、「次へ」ボタンをクリックします。
13. 「ドライブ文字またはドライブパスの割り当て」画面で、「ドライブ文字またはドライブパスを割り当てない」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。
14. 「パーティションのフォーマット」画面でフォーマット情報を入力し、「次へ」ボタンをクリックします。

項目	設定値
ファイルシステム	NTFS
アロケーション ユニットサイズ	既定値
ボリュームラベル	管理兼業務サーバ#1 または業務サーバ#n の記憶域情報のボリュームラベル

15. 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」画面で、設定した項目が表示されるので、確認して問題なければ、「完了」ボタンをクリックします。
16. パーティションのフォーマットが開始され、終了するまでしばらく待ちます。
パーティションのフォーマットが完了すると、「未割当て」領域がフォーマットされ、利用可能になります。

2.2.4.4. Windows Server フェールオーバークラスターへのクラスター共有ボリューム登録

Hyper-V サーバに「2.2.4.3. Windows Server Hyper-V ホストへのボリューム登録」で登録されたボリュームをクラスター共有ボリュームとして使用するためには、フェールオーバークラスターへクラスター共有ボリュームとして登録する必要があります。

POINT

- フェールオーバークラスターマネージャーの操作は、管理兼業務サーバ#1 のみで操作します。

1. 管理端末でリモートデスクトップ接続を起動します。

2. 「オプションの表示」をクリックし、全般タブのログオン設定に新規ボリュームを接続したい Hyper-V サーバの接続情報を入力し、[接続]ボタンをクリックします。

項目	設定値
コンピューター	管理兼業務サーバ#1 の IP アドレス
ユーザー	<ドメイン名>¥Administrator
パスワード	ソフトウェアパスワード

3. サーバーマネージャーを起動し、ツールメニューから「フェールオーバークラスターマネージャー」をクリックします。
4. 「フェールオーバークラスターマネージャー」画面のコンソールツリーで、<クラスター名>を展開し、[記憶域] を展開します。

項目	設定値
クラスター名	フェールオーバークラスターマネージャーの管理兼業務クラスター名

5. [ディスク] を右クリックし、[ディスクの追加] をクリックします。
6. フェールオーバー クラスターに追加できるディスクの一覧が表示されます。
7. 追加する 1 つまたは複数の新規ボリューム(ディスク)を選択し、[OK] をクリックします。
8. 新規ボリューム(ディスク)が [使用可能記憶域] グループに追加されます。
9. 「フェールオーバークラスターマネージャー」画面の中央ペインの[使用可能記憶域]に割当てられている 1 つまたは複数の新規ボリューム(ディスク)を選択し、それらを右クリックして、[クラスターの共有ボリュームへの追加]をクリックします。
新規ボリューム(ディスク)が[クラスターの共有ボリューム]グループに割当てられます。
クラスター共有ボリュームは、各クラスターノードの%SystemDisk%ClusterStorage フォルダの下に番号付きのボリューム (マウントポイント) として公開されます。
通常は以下の場所となります。
“C:¥ClusterStorage¥Volumenn”
ボリュームは、CSVFS ファイルシステムとして表示されます。

ドライブエンクロージャ増設は以上で終了です。

■ 「第3章 ストレージ HDD 増設オプション」を追加します。

本章では、ストレージ HDD 増設オプションにおける ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 コントローラエンクロージャ、あるいは、ドライブエンクロージャへの HDD の増設手順について説明します。

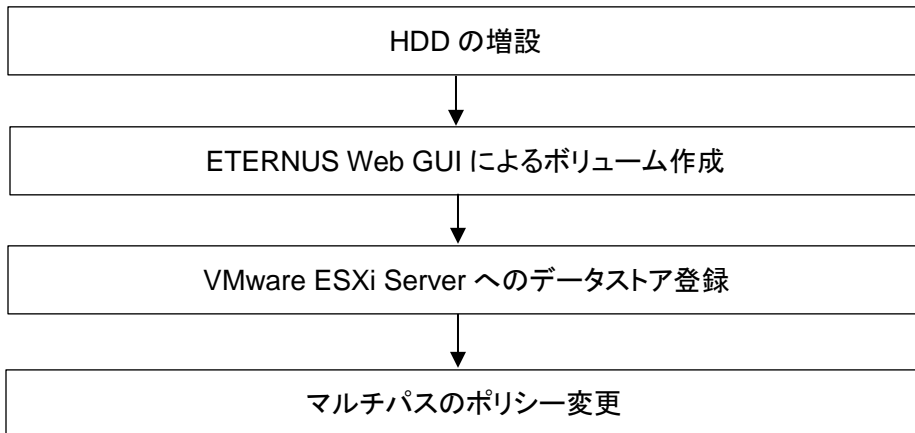
3.1. ハードディスク増設の流れ

ここでは、ハードディスク(以下 HDD)増設の流れについて説明します。

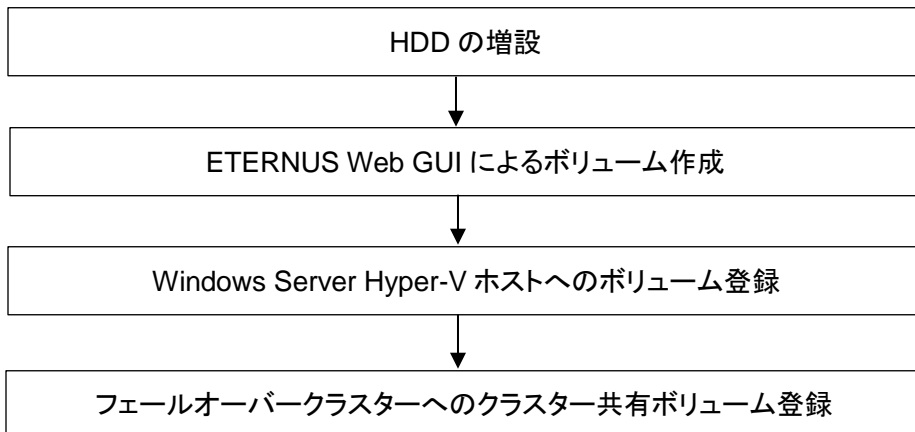
(1) 2.5 インチ HDD 増設の流れ

2.5 インチ HDD は以下の流れで増設します。

[CRB500 V1 (VMware,RX2530/DX), CRB500 V1 (VMware,BX2580/DX)の場合]

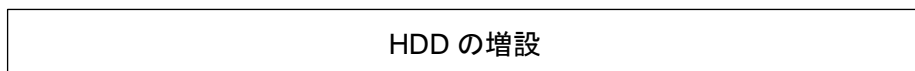


[CRB200/CRB500 V1 (Hyper-V,RX2530/DX)の場合]



(2) 3.5 インチ HDD 増設の流れ

3.5 インチ HDD は、HDD の増設のみ実施します。



3.2. HDD 増設手順

HDD の増設手順を説明します。

3.2.1. HDD 増設

『ETERNUS DX100 S3/DX200 S3 運用ガイド(基本編)』 - 「第 5 章 増設／機能拡張」 - 「5.1. ドライブの増設」の手順に従って、HDD の増設を行います。

3.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成

本書内の「第 2 章 ストレージエンクロージャ増設オプション」 - 「2.2.2. ETERNUS Web GUI によるボリューム作成」の内容に従い、ボリュームを作成します。

3.2.3. ホストサーバへのボリューム登録

本書内の「第 2 章 ストレージエンクロージャ増設オプション」 - 「2.2.4. ホストサーバへのボリューム登録」の内容に従い、ボリューム登録します。

POINT

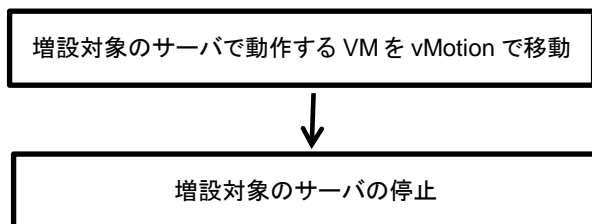
- ホストサーバへのボリューム登録手順は、ホストサーバの種別 (VMware ESXi Server または Windows Server Hyper-V) により異なります。

以上で、ストレージ HDD 増設作業は終了です。

4. 「FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Cloud フィールド増設オプション増設ガイド(共通)」への補足事項

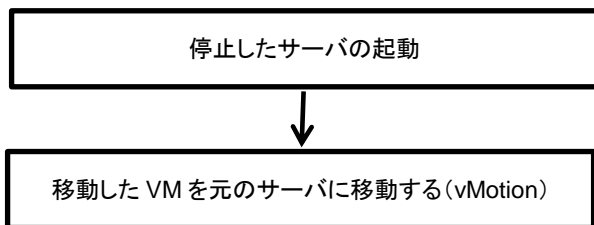
- 「1.2 サーバのシステムからの切り離し・サーバの停止」に以下を追加します。

作業は以下の流れで行います。作業の詳細は『利用ガイド』を参照してください。



- 「1.4 サーバの起動・サーバのシステムへの組込み」に以下を追加します。

作業は以下の流れで行います。作業の詳細は『利用ガイド』を参照してください。



以上